

シンディングの「春のささやき」、初めて聴く作品。ドローンから春の訪れの俯瞰、接写フォーカス、クローズアップ。スムーズな昇降、左右入れ替わる情景、ジェットコースターのビューポイント。若々しい芽吹き、賑やかなサエズリ、可憐な花の芳香、それら喜びにあふれ。草原、川面、水の流れ、広がるパノラマをイメージ。

ピアニストによる「英雄ポロネーズ」、今までに何度か聴く。劇的でダイナミックな進行、高揚してジャストな収まり、達成による充実の楽しみ、その都度体験。今日の中間部、不安げなパッセージを何度も何度も、聴き手の心を強くキャッチ。何処へ、行き先不明の不安定さ、今まであまり気にならなかったフレーズ、新鮮な経験。「幻想即興曲」の最後、快活ならざるゆったりアルペジオ、後ろ向けネガティブ一閃、これまた新感覚ハツとする。

シューベルトの「即興曲 Op.90-4」、朗々たる美しい旋律の支配、歌心の盛り上がり、ロマンチックに描ききる、穏やかワールドに漂う心地よさ。冒頭から繰り返される、軽やかなパッセージ、じゃれるチョッカイお節介チック。ピアニストと進行役の人とのサジェスション、星か涙か年輪にて変化する感覚。

モーツアルトの「ピアノソナタ15番」、如才ないパフォーマンス。以前のレクチャーでは弄ってよいとの記憶、術中に嵌って気付かないだけかも。ピアニストによる「ラ・カンパネラ」は初めてかも、トレンドのアンコールピース。無意識に慣れっこ鈍感に陥り気味、技術誇示でなく内容重視、すんなり納得。「ハンガリー舞曲 5番」、疎と密のコントラスト、ベンチャーズ・サウンドに刷り込まれた耳には、少し物足りなさ。(2015.6.11)<P>

---

モーツアルト：ピアノソナタ 15番 ハ長調 K.545

ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66

ショパン：ポロネーズ 6番 変イ長調 Op.53「英雄」

シンディング：春のささやき Op.32-3

リスト：「パガニーニによる大練習曲」3番 嬰ト短調「ラ・カンパネラ」

シューベルト 即興曲 4番 変イ長調 Op.90-4

ブラームス ハンガリー舞曲 5番 嬰ヘ短調

---

---

(アンコール)

ショパン：ノックターン 20番 嬰ハ短調 Op.poth

モーツアルト：トルコ行進曲 (ピアノソナタ 11番 イ長調 K.331 第3楽章)

---